

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104449
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホームであい
所在地	松山市余戸南5丁目3-18
自己評価作成日	平成 24 年 11月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 12 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に『笑いが耐えない暮らしをお手伝いする』と掲げているように、日々笑いがある生活を送って頂いていると思っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は特別養護老人ホームの施設1階にあり、同敷地内には有料老人ホームも併設されている。施設内での交流や多数の専門委員会を設けて会議が行われ、毎月勉強会を実施して職員のレベルアップを図り、利用者本意の支援に取り組んでいる。「思いやりと温もりがあり、笑いの絶えない暮らしをお手伝いします。」という理念を掲げ、利用者や家族との信頼関係が深まるよう支援し、利用者が楽しい雰囲気の中で穏やかにその人らしく暮らせるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム であい

(ユニット名) 桜の宿

記入者(管理者)

氏名 長岡 千里

評価完了日 平成 24 年 11月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念をユニットに掲示し職員全員が共有できるよう話し合い実践につなげている	
			(外部評価) 職員全員で話し合っこれまでの理念を見直し、「思いやりと温もりがあり、笑いが絶えない暮らしをお手伝いします。」という新たな理念を作った。理念は各ユニットに掲示し、毎朝の申し送り時に唱和し共有に努め実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域のボランティアの方の慰問や他施設を訪問したりと交流している	
			(外部評価) 自治会に加入し、区長や民生委員から地域の情報を得て行事に参加したり、地域のボランティアや児童養護施設の児童の訪問を受けて地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通して地域の方々に認知症の方の理解や支援の方法について話し合っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 活動報告、取り組み、サービス状況など報告して話し合い意見を頂いている	地域住民や家族、職員が参加しやすいよう開催時間や議題を工夫するなどして、幅広い参加者と意見交換が行われることを望みたい。また参加できなかった人にも内容が分かるように議事録を整備して、会議の内容が役立つように工夫する取り組みに期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、町内会長や民生委員、市職員、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。事業所の活動報告や感染症、防災についての議題をあげて意見交換を行っているが、参加者が固定化されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に松山市介護保険課の方に出席していただき情報や取組みの伝達を行っている	市の担当者には、運営推進会議で情報交換やアドバイスをもらっている。また介護保険の手続き等の相談を行い連携を図っている。地域包括支援センターとは、毎月電話で入居状況等の情報交換を行い、勉強会にも参加している。
			(外部評価)	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会や委員会にて職員全員が取組んでいる 玄関の施錠に関しては施設全体のセキュリティの問題がある為1事業所だけの判断は難しいが 希望があればいつでも一緒に出入り出来るようにしている	3か月に1回身体拘束委員会を開催し、身体拘束をしないケアに理解を深め実践に活かしている。言葉による拘束については、職員同士で声を掛け合い注意している。施設全体にセキュリティーが整備されているが、利用者の自由な生活を妨げないように、職員が配慮して見守っている。
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 3ヶ月に一度委員会を開き話し合いを行って虐待防止に努めている また同時に勉強会も行っている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度等勉強会を行いそれらを必要とするご家族様に情報を提供し話し合いをしている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) その都度説明を行ったり、文書にしてお渡しして納得して頂いている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会の開催時に意見、要望等を伺い 日頃より面会に来られた家族様とお話をさせて頂いている	
			(外部評価) 家族とのコミュニケーションを重視して、話しやすい雰囲気作りに努めている。面会時に声をかけて話を聞いたり、電話で要望等を聞いている。年に1回、家族会も開催している。玄関に意見箱を設置したり、アンケートを年に2回実施して意見や要望を聞く機会を設けている。出された意見は職員全員で話し合いケアに反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会、ワーカー会を開き意見や提案を聞き反映させている (外部評価) 施設全体会や職員会を毎月開催し、職員のアイデアや提案を出しやすい機会を設けている。職員の希望が活かされて、毎月、施設内での勉強会や外部研修にも交替で参加できレベルアップにつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の職員の状況等把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加し働きながらのトレーニングをしている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 包括支援センター西が他事業所との交流の場を設け勉強会や情報交換を行って質の向上に取り組んでいる	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人とお話しながらそれぞれの意見、要望等お聞きして信頼関係を築けるよう努力している	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期に家族様とお話しし、要望等聞きながら信頼関係 を築けるよう努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 必要な支援を見極め最善の方法で対応できるよう努め ている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 一緒に暮らしを共にする者として関係作りをしている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人と家族の関係を大切にし、一緒に支えていける よう努めている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ご本人との関係が継続していけるよう努めている (外部評価) 入居時に利用者や家族から聞き取り、馴染みの関係を 把握している。家族や知人の面会時はゆっくり過ごせ るように配慮している。また系列事業所の利用者や職 員との交流を図り、新しい馴染みの関係を大切にする よう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が関わりをもてるよう配慮しお互い助けあえるように支援している	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者や家族からの相談には必要に応じて支援するよう努めている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人本位で検討し、一人ひとりの希望や意向を取り入れている	
			(外部評価) 日常生活の中で利用者の会話から聞き取ったり、困難な場合は表情等から汲み取っている。また、家族に確認する等して利用者の希望を把握し、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 情報収集を行い把握できるよう努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の現状を把握できるよう申し送りや連絡ノートに記録し、職員全員が目を通すようにしている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族と話し合い、モニタリングを作成しカンファにて現状に合った計画を作成している	
			(外部評価) 担当者を決めて利用者の要望等を把握し、家族からは面会時に聞き取り介護計画に反映させている。面会に来れない家族については電話で確認している。毎月モニタリングを行い、3か月に1回または状態の変化に応じて介護計画を見直している。モニタリング実施記録と生活状況記録は毎月家族に郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日個々の記録に記入し、伝達ノートにて情報の共有を行いながら見直しを行っている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時々ニーズに対応できるようにし、他との連携もとっている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員と連携し、消防訓練やボランティアの受け入れ地域の医療機関の利用、理病院の出前等の受け入れて支援を行っている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 馴染みの医療機関を受診できるよう支援すると共にご 本人・家族との話し合いにて納得していただいてから 事業所協力機関の受診を支援している	
			(外部評価) 利用者のほとんどが協力病院をかかりつけ医としてお り、月2回の往診を受けている。歯科についても週1 回の往診があり、安心して医療を受けられる体制づく りに努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護・看護職員との連携をとりながら申し送りを行 い、かかりつけ医と相談を行っている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院に直接赴き、情報交換を行うと共に関係作りも 行っている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期には家族、かかりつけ医等ケア関係者と話し合 いながらチームで支援できるよう取組むこととして いる	
			(外部評価) 終末期の対応について、2か月に1回、看護師が講師 となり勉強会を開いている。看取りについての指針を 作成し、入居時に利用者や家族に説明し同意を得てい る。最近では重度化に備え特養入所の申し込みをする方 が多くなっているが、希望があれば対応している。こ れまでに2名の看取りをしている。	今後も利用者と家族が安心して納得した最期が迎えら れるよう、勉強会を継続して行うなど終末期対応の体 制づくりに取り組むことに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当講習や事故発生時の対応について現場にて勉強するようにしている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を実践的に行い、消防訓練も定期的に行って全職員が身につけられるようにしている 地域にも民生委員を通じて協力していただけるよう依頼している (外部評価) 施設全体で昼夜を想定して、年2回の防災訓練を実施している。消火設備や避難経路の確認、津波を想定して2階以上に上がる訓練を行なっている。施設が地域の避難場所になっており、運営推進会議を通して地域の方への情報提供や協力体制づくりをしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自尊心を傷つけることなく、一人ひとりの人格を尊重して声かけ対応をしている (外部評価) 利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮している。排泄時のさりげない声かけや、居室に入る時は必ずノックして利用者に確認してから入室するなど注意している。常に利用者の立場に立って対応するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でご本人の様子を把握しながらご本人の思いや希望に添えるように対応していく	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせてご本人の状態を把握した上でゆとりある生活が出来るよう支援している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみは毎日行い、定期的に理美容の利用をして頂いている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 配膳の準備、片づけを職員と一緒にして頂き、食事が楽しみなものとなるよう支援している	
			(外部評価) 施設の厨房で調理されたものを、ユニット毎で配膳して食事を提供している。3か月に1回は嗜好調査を行い、利用者の好みや食事形態、量など一人ひとりの希望を聞き対応している。また、月に1回、施設全体で給食会議を開催して情報交換を行っている。月1回程度の頻度でドライブをして外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 厨房にて栄養士、管理栄養士によりカロリー計算を行いバランスの取れた食事を確保している。ご本人の状態に合わせた支援を行っている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、能力に応じた対応をしながら口腔ケアをしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はなるべくトイレでの排泄の支援を行い、排泄の失敗やおむつの使用を減らしている	
			(外部評価) 排泄パターンを把握し、さりげなく誘導するなどトイレでの排泄を支援している。オムツを使用していた利用者がトイレで立位を繰り返すうちに、紙パンツ使用になった事例もある。異食行為のある利用者には、排泄用品を工夫するようにしている。ヨーグルトを毎日摂取したり、便秘がちな利用者は医師に相談するなど健康管理に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりに合った対応を考え、毎日の体操やヨーグルト摂取など予防に努めている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりに合った入浴方法を考え支援を行っている	
			(外部評価) 毎日入浴できるよう準備し、利用者の希望に合わせて週2回は入浴できるよう支援している。入浴の苦手な利用者には、声かけを工夫したり、シャワー浴や浴槽にゆっくり入る等の対応をしている。また、入浴剤を入れたり、ゆず湯やバラの花湯にするなど、入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご本人のリズムやその時々状況に合わせて休息・睡眠をとって頂いている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に対して用法等理解し服薬チェックを行って支援している また状態変化に対しても医療関係者に情報を提供している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) カラオケ、塗り絵等好みに合わせて支援行っている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族にも協力を依頼し戸外へ出かけられるよう支援している (外部評価) 天気の良い日は施設の周りを散歩する等、1日1回は外出する機会を作るように支援している。大型ショッピングセンターへの買い物のほか、バイキングや紅葉狩り、梅まつり、いちご狩りなど、普段行けない所に出かけて楽しめるよう年間計画を立てて支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お買い物を計画しご本人で買っていただけるよう支援している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族に毎月お手紙が書けるよう配慮し電話の対応も支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 整理整頓・清掃を行い不快な思いをさせないよう配慮し、季節のものの飾りつけなどして工夫をしている	
			(外部評価) フロア全体は職員が掃除を行い清潔保持に努めている。トイレは一般用と車いす対応があり使いやすくなっている。フロアの一角に畳スペースがあり洗濯物をたたむ等、利用者の交流の場となっている。毎週金曜日に工作の時間を設けて、季節を感じられる物を作成して飾ることで、居心地よく過ごせる共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 不安やストレスにならないようリビングにはソファを設置したり居室ではご自分の時間が過ごせるよう配慮している	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご本人の使用していた物を使って頂きなじみの暮らしが出来るよう工夫している	
			(外部評価) 居室には整理ダンスと床頭台が備え付けてある。使い慣れた布団やベッド、テレビ、仏壇等が持ち込まれ、お気に入りの写真や手作り品、孫の手紙等を飾り、利用者一人ひとりが落ち着いて過ごせるようにしている。掃除は職員と利用者が一緒に行い、常に清潔にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安心して自立した生活が送れるよう安全面に配慮した環境づくりをしている	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104449
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホームであい
所在地	松山市余戸南5丁目3-18
自己評価作成日	平成24年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 12 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月ライブを企画し音楽療法や各クラブ、行事等も多彩である

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は特別養護老人ホームの施設1階にあり、同敷地内には有料老人ホームも併設されている。施設内での交流や多数の専門委員会を設けて会議が行われ、毎月勉強会を実施して職員のレベルアップを図り、利用者本意の支援に取り組んでいる。「思いやりと温もりがあり、笑いの絶えない暮らしをお手伝いします。」という理念を掲げ、利用者や家族との信頼関係が深まるよう支援し、利用者が楽しい雰囲気の中で穏やかにその人らしく暮らせるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム であい

(ユニット名) 梅の宿

記入者(管理者)
氏名 渡邊 美代子

評価完了日 平成24年11月9日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を活きたものとする為に日々の中で話し合っ て再確認しながら実践できるように努めている	
			(外部評価) 職員全員で話し合っ てこれまでの理念を見直し、「思 いやりと温もりがあり、笑いが絶えない暮らしをお手 伝いします。」という新たな理念を作った。理念は各 ユニットに掲示し、毎朝の申し送り時に唱和し共有に 努め実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一員とし て日常的に交流している	(自己評価) 地域の活動、行事での交流や慰問をお互いで行い交流 している	
			(外部評価) 自治会に加入し、区長や民生委員から地域の情報を得 て行事に参加したり、地域のボランティアや児童養護 施設の児童の訪問を受けて地域との交流を図ってい る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通して地域の方々に認知症を理解して いただくと共に支援の方法について話し合っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 活動報告、取り組み、サービス状況などを報告して話し合い意見を頂いている	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、町内会長や民生委員、市職員、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。事業所の活動報告や感染症、防災についての議題をあげて意見交換を行っているが、参加者が固定化されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に松山市介護保険課の方に出席していただき情報や取組みの伝達を行っている	
			(外部評価) 市の担当者には、運営推進会議で情報交換やアドバイスをもらっている。また介護保険の手続き等の相談を行い連携を図っている。地域包括支援センターとは、毎月電話で入居状況等の情報交換を行い、勉強会にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会や委員会にて職員全員が取り組んでいる 玄関やリビングの施錠に関してはセキュリティの問題から1事業所だけでの判断は難しいが希望があればいつでも一緒に出入りできるようにしている	
			(外部評価) 3か月に1回身体拘束委員会を開催し、身体拘束をしないケアに理解を深め実践に活かしている。言葉による拘束については、職員同士で声を掛け合い注意している。施設全体にセキュリティーが整備されているが、利用者の自由な生活を妨げないように、職員が配慮して見守っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止法等について勉強し、職員による言動も虐待につながることを常に考え防止に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度等勉強会を行いそれらを必要とするご家族様に情報を提供し話し合いを行っている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) その都度説明を行ったり、文書にしてお渡しして納得していただいている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会開催時に 意見、要望等を伺い日頃より面会に来られた家族様とお話しをさせていただいている	
			(外部評価) 家族とのコミュニケーションを重視して、話しやすい雰囲気作りに努めている。面会時に声をかけて話を聞いたり、電話で要望等を聞いている。年に1回、家族会も開催している。玄関に意見箱を設置したり、アンケートを年に2回実施して意見や要望を聞く機会を設けている。出された意見は職員全員で話し合いケアに反映している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会、ワーカー会を開き意見や提案を聞き反映させている (外部評価) 施設全体会や職員会を毎月開催し、職員のアイデアや提案を出しやすい機会を設けている。職員の希望が活かされて、毎月、施設内での勉強会や外部研修にも交替で参加できレベルアップにつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の職員の状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修を受け働きながらのトレーニングを行っている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修等の参加で、他事行書との交流の機会をつくり、またグループホームの連絡会に参加することによりサービスの質の向上に努めている	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人とお話しながら、意見・要望等をお聞きして信頼関係を築けるよう努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初めにご家族様の要望等をお聞きしてサービスを利用していただき、信頼関係を築けるよう努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要な支援を見極め最善の方法で対応できるようにしている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に暮らしを共にする者として関係づくりをしている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人と家族の関係を大切にしながら一緒に支えていけるよう努めている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人との関係が継続していけるよう努めている (外部評価) 入居時に利用者や家族から聞き取り、馴染みの関係を把握している。家族や知人の面会時はゆっくり過ごせるように配慮している。また系列事業所の利用者や職員との交流を図り、新しい馴染みの関係を大切にしよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が支えあい助け合っているように配慮し楽しく過ごせるように支援している	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者や家族からの相談には必要に応じて支援するよう努めている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族からの情報を生かしながら本人本位に検討し一人ひとりの希望や意向を取り入れている	
			(外部評価) 日常生活の中で利用者の会話から聞き取ったり、困難な場合は表情等から汲み取っている。また、家族に確認する等して利用者の希望を把握し、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人や家族から情報を収集を行い把握できるように努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ご本人の現状を把握できるよう申し送りや連絡ノートに記録し 職員全員が把握できるように努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人家族と話し合いモニタリングを行って現状に合った計画を作成している。またご本人の状態変化によっても見直しを行っている	
			(外部評価) 担当者を決めて利用者の要望等を把握し、家族からは面会時に聞き取り介護計画に反映させている。面会に来れない家族については電話で確認している。毎月モニタリングを行い、3か月に1回または状態の変化に応じて介護計画を見直している。モニタリング実施記録と生活状況記録は毎月家族に郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録が介護計画の見直しに生かせるように職員全員が日々の様子やケアの気づきを個々に具体的に記入できるようにしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時々ニーズに対応できるようにし他との連携もとれるようにしている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員と連携し消防訓練やボランティアの受け入れや地域の医療関係の利用、理・美容院の出前等の受け入れにて支援を行っている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 馴染みの医療機関を受診できるよう支援し、ご本人・家 族に納得していただいてから事業所の協力医療機関の 受診を行っている</p> <p>(外部評価) 利用者のほとんどが協力病院をかかりつけ医としてお り、月2回の往診を受けている。歯科についても週1 回の往診があり、安心して医療を受けられる体制づく りに努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護・看護職員との連携をとりながら申し送りを行い、 かかりつけ医と相談をおこなうようにしている</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 医療機関に直接赴き情報交換を行うと共に関係作りも 行っている</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 終末期には家族、かかりつけ医等ケア関係者と話し合 いながらチームで支援できるよう取組むこととしている</p> <p>(外部評価) 終末期の対応について、2か月に1回、看護師が講師 となり勉強会を開いている。看取りについての指針を 作成し、入居時に利用者と家族に説明し同意を得てい る。最近では重度化に備え特養入所の申し込みをする方 が多くなっているが、希望があれば対応している。こ れまでに2名の看取りをしている。</p>	今後も利用者と家族が安心して納得した最期が迎えら れるよう、勉強会を継続して行うなど終末期対応の体 制づくりに取り組むことに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時のマニュアルを作成し、定期的に勉強会を行って現場にて活かせるようにしている。また応急手当講習会を受講している	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の民生委員を通じて協力いただけるよう依頼している。定期的に消防訓練を行い避難訓練も実践的に行っている (外部評価) 施設全体で昼夜を想定して、年2回の防災訓練を実施している。消火設備や避難経路の確認、津波を想定して2階以上に上がる訓練を行なっている。施設が地域の避難場所になっており、運営推進会議を通して地域の方への情報提供や協力体制づくりをしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自尊心を傷つけることなく、一人ひとりの人格を尊重しプライバシーや誇り損ねないような声かけを行っている (外部評価) 利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮している。排泄時のさりげない声かけや、居室に入る時は必ずノックして利用者に確認してから入室するなど注意している。常に利用者の立場に立って対応するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でご本人の様子を把握しながらご本人の思いや希望に添えるようにしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の思いだけで物事を決めたりせず、それぞれの能力、希望に応じた生活ができるように対応している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日身だしなみを行い、ご自分で決定できない人には何着か用意しご本人に選んでいただけるよう支援している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の能力により、盛り付けやテーブル拭き後片付けを職員と一緒に出来るよう対応し食事が楽しみなものとしている	
			(外部評価) 施設の厨房で調理されたものを、ユニット毎で配膳して食事を提供している。3か月に1回は嗜好調査を行い、利用者の好みや食事形態、量など一人ひとりの希望を聞き対応している。また、月に1回、施設全体で給食会議を開催して情報交換を行っている。月1回程度の頻度でドライブをして外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 厨房にて栄養士・管理栄養士によりカロリー計算を行いバランスの取れた食事を確保し、ご本人の状態に合わせた支援を行っている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声かけにて口腔ケアを行い、ご本人の能力に応じて声かけ介助をしつつ口腔内の清潔保持につとめている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はトイレでの排泄を支援している。排泄パターンを把握し気持ちよく排泄できるように努めている	
			(外部評価) 排泄パターンを把握し、さりげなく誘導するなどトイレでの排泄を支援している。オムツを使用していた利用者がトイレで立位を繰り返すうちに、紙パンツ使用になった事例もある。異食行為のある利用者には、排泄用品を工夫するようにしている。ヨーグルトを毎日摂取したり、便秘がちな利用者は医師に相談するなど健康管理に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 日中はトイレでの排泄を考え、毎日の体操・歩行練習・ヨーグルト摂取など予防に努めている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) なるべく入浴の希望時間を聞き入れ個々に合った入浴の支援をしている	
			(外部評価) 毎日入浴できるよう準備し、利用者の希望に合わせて週2回は入浴できるよう支援している。入浴の苦手な利用者には、声かけを工夫したり、シャワー浴や浴槽にゆっくり入る等の対応をしている。また、入浴剤を入れたり、ゆず湯やバラの花湯にするなど、入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣やその時々のご本人の状況に応じて休息や睡眠がとれるように支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の薬に対して用法等理解し服薬チェックを行い支援している。また状態の変化に対しても医療機関に情報の提供を行っている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常的な家事の手伝いなどの役割が持てるように支援し、音楽療法やカラオケなど好みに合わせて支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月一回ドライブを企画し戸外へのお出かけ等で気分転換していただいている	
			(外部評価) 天気の良い日は施設の周りを散歩する等、1日1回は外出する機会を作るように支援している。大型ショッピングセンターへの買い物のほか、バイキングや紅葉狩り、梅まつり、いちご狩りなど、普段行けない所に出かけて楽しめるよう年間計画を立てて支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お買い物を計画しご自分で支払いが出来るよう支援している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族様にお手紙が書けるよう配慮し電話での対応も支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 整理整頓、清掃を行い居心地のよい空間作りに努めている。リビングには季節のものの飾りつけなどをして工夫している	
			(外部評価) フロア全体は職員が掃除を行い清潔保持に努めている。トイレは一般用と車いす対応があり使いやすくなっている。フロアの一角に畳スペースがあり洗濯物をたたむ等、利用者の交流の場となっている。毎週金曜日に工作の時間を設けて、季節を感じられる物を作成して飾ることで、居心地よく過ごせる共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファ設置し和室を活用したり居室ではご自分の時間を過ごせるように配慮している	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 仏壇やご自分の使用していた物を持参していただきなご自分の暮らしが出来るよう工夫している	
			(外部評価) 居室には整理ダンスと床頭台が備え付けてある。使い慣れた布団やベッド、テレビ、仏壇等が持ち込まれ、お気に入りの写真や手作り品、孫の手紙等を飾り、利用者一人ひとりが落ち着いて過ごせるようにしている。掃除は職員と利用者が一緒に行い、常に清潔にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全かつ自立した生活が送れるように配慮した環境づくりをしている	